No.

政務活動費　視察・研修会等　報告書

視察都市	富山県高岡市
視察日時	令和 5 年 7 月 4 日 (火) 15 時 00 分　～　16 時 45 分
訪問先	山町筋伝統的建造物群保存地区 〒933-0926～0914 富山県高岡市御馬出町～小馬出町 金屋町伝統的建造物群保存地区 〒933-0841 富山県高岡市金屋町
参加者	園田基博　人見武男　北川久人　石渡宏明　小島　強
視察目的	重要伝統的建造物群保存地区（高岡）における歴史的風致と観光振興および観光資源化

■ 視察内容:

案内人：高岡市観光ボランティアガイド「保与の会」出口　憲史　様
公益社団法人　高岡市観光協会　課長　北本　亮一　様
公益社団法人　高岡市観光協会　　鴨嶋　亮　様

◎ 高岡市の概要:

- 富山県の北西部に位置。面積 209.58km2、人口 164,763 人(2023 年 06 月末日現在)、平成 17 年 11 月 01 日、旧高岡市と旧福岡町との合併都市です。
- 市内の西側は山間地域で西山丘陵や二上山が連なり、北東側は富山湾、東側は庄川・小矢部川によって形成された扇状地が広がっています。
- ２つの国宝（高岡山瑞龍寺、雲龍山勝興寺)、2 つの日本遺産（北前船寄港地・船主集落、加賀前田家ゆかりの町民文化)、３つの重伝建（山町筋、金屋町、吉久）です。富山県には５つの重伝建があります。
- コロナ感染症が５類に移行後の観光においては、半分くらいの賑わいがあります。
- 高岡のアルミニウム産業は、本市の伝統産業である銅・鉄器の鋳物技術をもとに、昭和初期に鍋・釜などの日用品を製造し、近県及び中京方面に出荷したのが始ま

りです。

・ 金沢以上に加賀文化を色濃く残している町です。

◎ 金屋筋　伝統的建造物群保存地区

・ 加賀前田家二代当主利長が砺波郡西部金屋（現在の高岡戸出）から 7 人の鋳物師（いもじ）を招き鋳物場を開帳させたことが始まりで、移住した鋳物師に対して税制上の優遇を施しました。

・ 「さまのこ」（千本格子）と呼ばれる繊細な格子や袖壁など美しい意匠や豊かな造作を持つ町家が軒を連ね、約５００ｍに渡る石畳の道との調和を見せています。

・ 石畳の所々には、鋳物のまちを連想させるハート型や星座（北斗七星）の位置におかれた銅片が散りばめています。

・ 二階建ての建物はあるが低く倉庫となっています。雪国なので梁が出ています。

・ 敷地は短冊形で、道路に面して主屋を建て、中庭をはさんで土蔵が建ち、さらに作業場が置かれる。作業場で火災が発生した際に主屋への延焼を防ぐための工夫です。

・ 主屋は真壁造りとし、切妻造平入で桟瓦葺きを基本としています。下屋庇は金属板葺や古いものでは板庇が残ります。

・ 一階正面は出入口に格子戸や大戸を建て構え、開口部にはサマノコと呼ばれる格子を設けるものが一般的で、古いものには蔀（しとみ）が残る。二階は袖壁を設け、長押、貫を化粧でみせる木部と、白い漆喰壁がコントラストをみせています。

・ 大寺幸八商店では、目の細かい障子と簀の子を季節に応じて替えています。小学生の体験学習で錫や柔らかい金属を使用したアクセサリーづくりを行っています。

・ 炉による煤や灰などの拭き掃除をしているため、千本格子に角がありません。

・ 金屋町まちづくり憲章が策定され、行政では電柱を埋めて、石畳の道路にしています。特に外観を重視したまちづくりを行っています。

No.

・ 千本川は、「鋳物の輸送」と「防火対策しての隔たり」として利用されていました。

◎ 金屋緑地公園

・ 平成元年、鋳物工場の跡地に作られた公園です。噴水が上から下に落ちている様は千本格子（さまのこ）のイメージと防火の象徴として作られています。

・ 富山県高岡市は、全国の銅像の 9 割を作る鋳物町であり、二宮金次郎像を作成している会社があります。『報徳記』に基づいて記した『二宮尊徳翁』の口絵で制作しているため、薪ではなく、シバを背負っています。

・ 高岡の歴史と鋳物を知るために市内の小学生に鋳物の原型を作ってもらい、鋳物師が作成した作品を置いてあります。

◎ 山町筋　伝統的建造物群保存地区

・ 加賀藩前田家二代当主利長が高岡開町に際し、近隣の城下町から町人を招いて北陸道沿いに町人町を作ったことが始まりです。ここを中心とする十町で 5 月 1 日に高岡御車山祭りを奉じていることから山町と呼ばれてます。

・ 今日まで残る町並みは 1900 年の大火（3500 件）の復興にあたり、防火構造である土蔵造りで主屋が建っています。これらに混じり、本格的な洋風建築の赤レンガの銀行や洋風建築の意匠を取りとり入れた主屋などが建ち並ぶまちです。

↑筏井家住宅（富山県有形文化財）

↑赤レンガの銀行

（富山県内唯一の大正時代の本格的な洋風建築

No.

◎ 菅野家住宅（国指定重要文化財：主屋と土蔵）

・ 明治初頭、菅野家 5 代の菅野伝右衛門が北前船での北海道貿易で財を成し、6 代目、7 代目は明治 22 年に高岡銀行、明治 36 年には高岡電灯を創立しました。さらに政界にも進出し高岡の発展に尽力した名家です。

・ 壁面は黒漆喰を塗り、2F には観音開きの扉を付け、屋根には大きな箱棟を付けるなど、高岡の土蔵造りの特徴を全て備えています。その他、金物の雪割りも備えています。

◎ 高岡御車山会館

・ 全国で５つしかない国の重要有形・無形民俗文化財である「御車山」を通年展示する施設です。

・ 御車山は 3 ヶ月に一度展示内容が変更される。

・ 山車に凝縮された“ものづくりのまち高岡”の工芸技術や、御車山を今日まで守り伝えてきた地域の文化を紹介し、保存・振興などを図る機能を持たせ、近世高岡の文化遺産群を巡るまち歩きの拠点施設です。

◎ 富山県にある高岡市以外の伝統的建造物群保存地区

・ 南砺市相倉（山村集落）と南砺市菅沼（山村集落）があります。

◎ 観光ボランティアについて

・ 高岡市ボランティアガイド連絡協議会が設置され、６つのボランティアガイドグループが存在しています。約１００名程度のガイドいます。基本、ガイド申込者（観光客など）は観光協会に依頼し、ボランティアグループ代表に連絡し、ガイド者決定される。観光協会の人数は 9 名（正職員 4 名、パート 5 名）、年間 500 件程度ガイドを行ってます。

・ ボランティアガイドの課題として①高齢化（平均年齢７０歳）②ガイド料③即時対応ができないなどの問題を抱えています。

・ 観光客の滞在時間が短く、宿泊する方が少なく、インバウンド収入が少ない。

・ 観光客の 6 割が、関東地域（東京神奈川など）に住まわれている方です。

・ 観光協会は、資料館や会館などクーポン券の発行やバスなどの周遊券の発行に関与しています。

・ ガイドボランティアに対して市からの補助は行っていません。ガイド料金は 1 時間 1000 円でガイド申込者から頂いています。

・ パンフレット、看板に多言語を記載しています。

・ 現地のコーディネーター（契約料 8 万/月）を活用して、観光協会職員が香港（現在は行っていません）、台湾（年 2 回、1 週間滞在し 30 社の訪問を実施）で、10 年間宣伝活動を行っています。最近になって成果が出始めています。

↑山町ヴァレー（コンシェルジュ室）

↑山町ヴァレー（レンタル和室）

↑山町ヴァレー（土蔵づくり）

◎ 富山県にある高岡市以外の伝統的建造物群保存地区

・ 南砺市相倉（山村集落）と南砺市菅沼（山村集落）があります。

■ 視察成果による当局への提言または要望等:

住んでいる人の強い思いで町並みの保存が継続されていますが、観光資源としての活用には、市政の協力は不可欠であると感じた。

桐生でも町並みとしての景観を重視しているなら、道路交通も含めてその時代の環境に合わせた景観の改善が必要であり、360 度見渡す範囲、もしくは小道からでた瞬間、その世界観に入り込める町並みが必要であると認識しました。

積極的に町を知ってもらうためのツールの充実は必要ですが海外にも根気強く、継続的な PR 活動も必要であり、桐生市でも積極的にインバウンド事業に取り組むことを要望します。

特に高岡ロケ地ガイドはよいツールなので、桐生でも、わかり易く、魅力的なガイドブックによる PR が必要と思いますので、よりよい桐生ロケ地ガイドブックの作成を要望します。

以上